

教科	地理歴史	科目	日本史A	単位数	2	学年・コース	1年 アカデミック
教科書	『詳説 日本史B』山川出版社 『新詳 日本史』浜島書店			担当者	成澤 可奈子		
概要・ねらい	わが国の歴史の始まりと展開を世界的視野にたち総合的に考えさせ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を考え深めることにより歴史的な考えを養い、国際社会に生きる日本人としての資質を養い表現できることを育成する。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	10	第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立	●自然環境や大陸文化の影響、人類の共通点などに着目できたか。 ●なぜ稲作が始まったのか、大陸との関連、道具の発達国への発達などを理解しているか。  《1学期中間調査》			
		10	第1章 日本文化のあけぼの 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	●大陸との関連、なぜ墳墓が出てきたのか、小国から国への発達が理解されているか。  《1学期期末調査》			
	二学期	13	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家の成立	●大和政権の発展から国の基礎が出来上がっていく過程が理解されているか。 ●国の基本となる法の制定、大陸(隋・唐)との関係、民衆の生活が理解されているか。  《2学期中間調査》			
		13	第2章 律令国家の形成 3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安朝廷の形成	●天平文化の特色を踏まえ、唐からの文化的影響、国家仏教の展開が理解されているか。 ●律令国家建設の歩みが本格的に進められ、平城京の時代に古代国家を現出し、平安朝廷の形成までが理解されているか。  《2学期期末調査》			
三学期	12	第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	●律令制度が大きくゆらぎ、土地制度の面では農民の成長がみられ、荘園・公領体制に切りかわり、政治の面では平安朝廷の形成過程が理解されているか。 ●国風文化の特徴および国風化の原因と影響を理解できているか。  《学年末調査》				
履修上の注意							
●授業は板書したりプリント等を利用するので、必ずノートを用意してください。							
●課題の提出に関しては評価にも影響しますので、必ず提出するようにしてください。							
※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用	技能・表現力	知識・理解		
評価の観点	我が国の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	日本の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を日本史的視野に立つて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	日本の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	日本の歴史についての基本的な事柄を、東アジア・ヨーロッパの歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。			
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出	●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出	●定期テスト ●授業への取り組む姿勢	●定期テスト ●課題等の提出			

教科	地理歴史	科目	世界史B	単位数	2	学年・コース	1年 アカデミック
教科書	『詳説 世界史B』山川出版社 『アカデミア世界史』浜島書店			担当者	萬田 依子		
概要・ねらい	世界史の大きな流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。また、文化の多様性と現代社会の特質を広い視野から考察させること によって、歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。						
年間 授業 計画	学期	配 当 時 間	学 習 内 容	評 価 規 準			
	一 学 期	10	第1章 オリентと地中海世界 1 古代オリент世界 2 ギリシア世界	《1学期中間考査》			
		10	第1章 オリентと地中海世界 3 ローマ世界 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1 西ヨーロッパ世界の成立				
	二 学 期	13	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 2 東ヨーロッパ世界の成立 3 西ヨーロッパ中世世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化	《2学期中間考査》			
		13	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス 3 宗教改革 4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	《2学期期末考査》			
三 学 期	12	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会	《学年末考査》				
履修上の注意		<p>●授業の際は、教科書、資料集、プリントを持参してください ●配布されたプリントを保管すること</p> <p>●課題の提出状況、内容は評価に影響します。 ●欠席、遅刻をしないこと</p> <p style="text-align: right;">※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p>					
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度		思考・判断		資料活用の技能・表現力		知識・理解
評価の観点	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとするか。		世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できるか。		世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。		世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけているか。
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出状況		●定期テスト ●課題等の提出内容		●定期テスト ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出内容		●定期テスト ●課題等の提出内容

教科	地理歴史	科目	日本史A	単位数	2	学年・コース	1年 進学・体育
教科書	『詳説 日本史B』山川出版 『新詳 日本史図説』浜島書店			担当者	小針 大輝・金田 浩明・小岩井 達裕		
概要・ねらい	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	10	第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争	●新政府の制度改革に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。 ●明治初期の対外政策について、欧米諸国とアジア諸国への対応の差異を捉えられたか。 ●自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察できたか。  ≪1学期中間考査≫			
		10	第9章 近代国家の成立 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達	●日露戦争の経緯・経過とそれに伴う日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を把握できたか。 ●日清日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を捉えられたか。 ●国民が主体的に創造した近代文化の特色を考察できたか。  ≪1学期期末考査≫			
	二学期	13	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代	●第一次世界大戦前後の政治の動向を、政党内閣の成立や欧米・アジア諸国との関係を踏まえて考察できたか。 ●ワシントン体制に至る過程を、国際環境の変化の中で日本の立場に着目しながら捉えられたか。 ●大衆文化の成立を、その背景となる社会風潮に着目しながら考察できたか。  ≪2学期中間考査≫			
		13	第10章 二つの世界大戦とアジア 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦 第11章 占領下の日本 1 占領と改革	●戦後恐慌から昭和恐慌に至る過程を、国内外の経済状況を踏まえて理解できたか。 ●対外政策および国際社会での立場の変化を踏まえ、日本が戦争に突入していった経緯を考察することができたか。  ≪2学期期末考査≫			
三学期	12	第11章 占領下の日本 2 冷戦の開始と講話 第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ	●第二次世界大戦終結以降の日本の動向を把握できたか。 ●戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化について理解することができたか。  ≪学年末考査≫				
履修上の注意		●板書をしっかり写すこと ●配布されたプリントを保管すること ●課題、宿題などにしっかり取り組むこと ●欠席、遅刻をしないこと ※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する					
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用	知識・理解			
評価の観点の趣旨	わが国の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	日本の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特徴を日本史的視野にたつて多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	日本の歴史についての諸資料を収集し、興味ある情報を選択して活用することを通して歴史的な事柄を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察し過程や結果を適切に表現する。	日本の歴史についての基本的な事柄を、東アジアやヨーロッパの歴史と比較しながら、どのように展開していくか追求し考え理解されているか判断する。			
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出状況	●定期テスト ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出状況	●定期テスト ●授業への取り組み姿勢	●定期テスト ●小テスト ●課題等の提出状況			

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2	学年・コース	1年 進学・体育
教科書	『詳説 世界史B』山川出版社 『最新世界史図説』タペストリー 帝国書院			担当者	廣段 和也・坂巻 主税・森田 大介		
概要・ねらい	世界史の大きな流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。範囲としては現代を中心に学び、文化の多様性と現代社会の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	10	第13章 帝国主義とアジアの民族運動 1 帝国主義と列強の展開 2 世界分割と列強対立	●帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。 ●帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。  ≪1学期中間考査≫			
		10	第14章 二つの世界大戦 1 第一次世界大戦とロシア革命 ・バルカン半島の危機 ・第一次世界大戦の勃発 ・ロシア革命 ・ソヴィエト政権と戦時共産主義 ・ネップとソ連の成立	●第一次世界大戦の勃発とその影響、ロシア革命の発生とその影響について理解しているか。  ≪1学期期末考査≫			
	二学期	13	第14章 二つの世界大戦 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ・国際協調と軍縮の進展 ・西欧諸国の停滞 ・イタリアのファシズム・東欧・バルカン諸国の動揺 ・ソ連の社会主義建設とアメリカ合衆国の繁栄	●ヨーロッパ及びアメリカ合衆国に第一次世界大戦が与えた影響について理解しているか。  ≪2学期中間考査≫			
		13	3 アジア・アフリカ地域の民族運動 ・第一次世界大戦と東アジア ・日本の動きと東アジアの民族運動 ・国民党と共産党 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・世界恐慌とその影響 ・ニューディール政策とブロック経済 ・ナチス＝ドイツとヴェルサイユ体制の崩壊 ・ソ連の五カ年計画とスターリン体制	●アジア地域における第一次世界大戦が与えた影響について理解しているか。 ●世界恐慌と資本主義の変容と第二次世界大戦に突入する流れを理解しているか。  ≪2学期期末考査≫			
三学期	12	5 第二次世界大戦 ・ナチス＝ドイツの侵略と開戦 ・ヨーロッパ戦争 ・独ソ戦と太平洋戦争 ・ファシズム諸国の敗北	●第二次世界大戦の大きな流れを理解し、当時の国際社会の動きを考察させる。  ≪学年末考査≫				
履修上の注意							
評価の観点 ●配布されたプリントを保管すること							
●課題、宿題などにしっかり取り組むこと ●欠席、遅刻をしないこと ※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現		資料活用の技能		知識・理解	
評価の観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとするか。	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できるか。		世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。		世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけているか。	
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出状況	●定期テスト ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出状況		●定期テスト ●授業への取り組み姿勢		●定期テスト ●小テスト ●課題等の提出状況	

教科	地理歴史	科目	日本史B	単位数	4	学年・コース	2年 アカデミック文系
教科書	山川出版社「詳説 日本史B」			担当者	花本 隆		
概要・ねらい	わが国の歴史の始まりと展開を世界史的視野にたち総合的に考えさせ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を考え深めることにより歴史的な考えを養い、国際社会に生きる日本人としての資質を養い表現できることを育成する。						
年間授業計画	学期	配 間 当 時	学習内容	評価基準			
	一 学 期	20	第3章 貴族政治と国風文化 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会	律令制度が大きくゆらぎ、土地制度の面では農民の成長がみられ、荘園・公領体制に切りかわり、政治の面では平安朝廷の形成過程が理解されているか。 荘園支配の動向や武士の成長、文化の面で武士や庶民の生活が反映され始めたことに着目して、古代社会の変化の中に中世社会の萌芽が見られたことを考察できたか。 武家・公家・寺社などが権力を分有する多様性や地域的な差異に基づいて、中世の国家や社会がどのようなものであるか考えたか。 《第1学期中間考査》			
		20	4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化	鎌倉幕府と室町幕府の共通点と違いなどを理解しているか。 室町幕府が衰退していく展開と一揆の動きなどを理解しているか。 《第1学期期末考査》※マークシート対応のテストとなります。			
	二 学 期	26	4 戦国大名の登場 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造	戦国大名の活動と支配のありかたが理解されているか。 全国統一への過程が理解されているか。 鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察できたか。 幕藩体制の特質について考察できたか。 初期外交から鎖国までの過程について、貿易統制と東アジアの動向を関連させて考察できたか。 《第2学期中間考査》			
		26	第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化 第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化	文治政治への転換から元禄時代・聖徳の治を取り上げ、幕政の安定過程を考察できたか。 農業技術の進歩に伴う農業生産の進展、産業の発達と多様化、交通の整備や貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都の発達に見える都市の経済的繁栄に着目して、諸産業の展開を考察できたか。 《第2学期期末考査》※マークシート対応のテストとなります。			
	三 学 期	24	3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争	幕府はいわゆる享保・寛政・天保の三大改革を実施したが、一揆・打ちこわしも起こって事態は深刻となったことを考察できたか。 19世紀になると、内憂外患は頂点に達して幕威は低下がめだち、その中で政治・社会・文化の様々な分野で近代への胎動が強まっていったことが考察できたか。 《学年末考査》※マークシート対応のテストとなります。			
履修上の注意							
授業は板書事項やプリント等をiPadで学習するので、必ずiPadを用意してください。また、課題等の提出に関しては評価にも影響しますので、必ず提出するようにしてください。							
評価の観点の趣旨と評価方法				※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する			
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現力	知識・理解			
評価の観点の趣旨	わが国の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	日本の歴史から課題を見だし、文化の多様性と現代世界の特質を日本史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	日本の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的な事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	日本の歴史についての基本的な事柄を、東アジア・ヨーロッパの歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。			
評価方法	授業への出席状況 授業への取り組み姿勢 課題等の提出状況	定期テスト 授業への取り組み姿勢 課題等の提出	定期テスト 授業への取り組み姿勢	定期テスト 小テスト 課題等の提出			

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	4	学年・コース	2年 アカデミック文系
教科書	『詳説 世界史B』山川出版社 『アカデミア世界史』浜島書店			担当者	萬田 依子		
概要・ねらい	世界史の大きな流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。また、文化の多様性と現代社会の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	20	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 2 東ヨーロッパ世界の成立 3 西ヨーロッパ中世世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化  第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス		《1学期中間考査》		
		20	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 3 宗教改革 4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成  第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会		《1学期期末考査》		
	二学期	26	第2章 アジア・アメリカの古代文明 1 インドの古典文明 2 東南アジアの諸文明 3 中国の古典文明 4 南北アメリカ文明  第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 1 草原の遊牧民とオアシスの定住民		《2学期中間考査》		
		26	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 2 北方民族の活動と中国の分裂 3 東アジア文化圏の形成  第4章 イスラーム世界の形成と発展 1 イスラーム世界の形成 2 イスラーム世界の発展 3 インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 4 イスラーム文明の発展		《2学期期末考査》		
	三学期	24	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 1 トルコ化とイスラーム化の進展 2 東アジア諸地域の自立化 3 モンゴルの大帝国		《学年末考査》		
履修上の注意							
●授業の際は、教科書、資料集、プリントを持参してください。				※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する			
●課題の提出状況、内容は評価に影響します。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用	表現力	知識・理解		
評価の観点	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとするか。	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できるか。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。		世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけているか。		
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出状況	●定期テスト ●課題等の提出内容	●定期テスト ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出内容		●定期テスト ●課題等の提出内容		

教科	地理歴史	科目	日本史A	単位数	3	学年・コース	2年 進学・体育
教科書	『詳説 日本史B』山川出版 『新詳 日本史図説』浜島書店			担当者	岡田 新平・小針 大輝・金田 浩明		
概要・ねらい	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることにより、歴史的思考力を培い、国際社会を体的に生きる市民としての自覚と資質を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	15	第9章 近代国家の成立 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係	●自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察できたか。 ●日露戦争の経緯・経過とそれに伴う日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を把握できたか。  《1学期中間考査》			
		15	第9章 近代国家の成立 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達	●日清日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を捉えられたか。 ●国民が主体的に創造した近代文化の特色を考察できたか。  《1学期期末考査》			
	二学期	20	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化	●第一次世界大戦前後の政治の動向を、政党内閣の成立や欧米・アジア諸国との関係を踏まえて考察できたか。 ●ワシントン体制に至る過程を、国際環境の変化の中で日本の立場に着目しながら捉えられたか。 ●大衆文化の成立を、その背景となる社会風潮に着目しながら考察できたか。  《2学期中間考査》			
		19	第10章 二つの世界大戦とアジア 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦	●戦後恐慌から昭和恐慌に至る過程を、国内外の経済状況を踏まえて理解できたか。 ●対外政策および国際社会での立場の変化を踏まえ、日本が戦争に突入していった経緯を考察することができたか。  《2学期期末考査》			
三学期	18	第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講話	●第二次世界大戦終結以降の日本の動向を把握できたか。 ●戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化について理解することができたか。 ※1年間で学習した内容を総まとめとして授業する  《学年末考査》				
履修上の注意		<ul style="list-style-type: none"> <li>●板書をしっかり写すこと</li> <li>●配布されたプリントを保管すること</li> <li>●課題、宿題などもしっかり取り組むこと</li> <li>●欠席、遅刻をしないこと</li> </ul> <p style="text-align: right;">※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p>					
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解			
評価の観点の趣旨	わが国の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	日本の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特徴を日本史的視野にたつて多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	日本の歴史についての諸資料を収集し、興味ある情報を選択して活用することを通して歴史的な事柄を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察し過程や結果を適切に表現する。	日本の歴史についての基本的な事柄を、東アジアやヨーロッパの歴史と比較しながら、どのように展開していくか追求し考え理解されているか判断する。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業への出席状況</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●小テスト</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>			

教科	地理歴史	科目	世界史B	単位数	3	学年・コース	2年 進学・体育
教科書	『詳説 世界史B』山川出版社 『最新世界史図説』タペストリー 帝国書院			担当者	廣段 和也・齋藤 翔太・村田 克則・金田 浩明		
概要・ねらい	世界史の大きな流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。範囲としては現代を中心に学び、文化の多様性と現代社会の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	15	第1章 オリентと地中海世界 1 古代オリент世界 2 ギリシア世界	●メソポタミア文明やエジプト文明など古代文明について、意欲的に学ぶことができたか。 ●エーゲ文明やフェニキア人により、オリент文明がギリシアに影響を与え、地中海世界が形成されたことを把握できたか。  《1学期中間考査》			
		15	第1章 オリентと地中海世界 2 ギリシア世界 3 ローマ世界 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1 西ヨーロッパ世界の成立	●ギリシア民主政の完成とその後の影響を理解できたか。 ●都市国家ローマが地中海帝国を形成し、その文化が大きな影響を与えたことを理解できたか。 ●西ヨーロッパ中世世界の成立過程を学び、現代の国々の原型が生まれ、また政治と宗教が密接に関わっていた事を理解することができたか。  《1学期期末考査》			
	二学期	20	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 2 東ヨーロッパ世界の成立 3 西ヨーロッパ中世世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化	●西ヨーロッパにおいてどのようにして封建社会から中央集権化が進んだかを理解することができたか。 ●十字軍やレコンキスタ、東方植民などの対外的な活動が西ヨーロッパ世界に与えた影響を理解することができたか。  《2学期中間考査》			
		19	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	●大航海時代を学習することにより、日本も含めた全世界を考え、ルネサンスの資料を通して文化を理解することができたか。 ●宗教戦争から主権国家体制の成立について、各国の政治状況を比較しながら理解することができたか。  《2学期期末考査》			
三学期	18	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開	●重商主義を展開する中で絶対王政が隆盛し、それに対する反抗も生まれたことを理解できたか。 ●世界の覇権争いとその形成過程を理解することができたか。  《学年末考査》				
履修上の注意							
評価の観点 <ul style="list-style-type: none"> <li>●配布されたプリントを保管すること</li> <li>●課題、宿題などにしっかり取り組むこと</li> <li>●欠席、遅刻をしないこと</li> </ul> ※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現		資料活用の技能		知識・理解	
評価の観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとするか。	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できるか。		世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。		世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけているか。	
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出状況	●定期テスト ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出状況		●定期テスト ●授業への取り組み姿勢		●定期テスト ●小テスト ●課題等の提出状況	



教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2	学年・コース	2年 アカデミック文系
教科書	『新詳地理B』帝国書院 『新詳地理資料COMPLETE2018』帝国書院 『新詳高等地図』帝国書院			担当者	萬田 依子		
概要・ねらい	地理の基本を学び、地図の読解や世界の地形、気候といった自然に関する見方を知り、環境に対する関心や愛情などを育成する。地誌的な分野では、世界各地域の特徴と問題点を学び、現代世界に生きる上での基本的な情報を学び、主体的に生きる力を養う。また、資料や写真を使い理解を深める。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	10	第Ⅱ部 1章 自然環境 1節 世界の地形 3節 日本の自然の特徴と人々の生活	《1学期中間考査》			
		10	第Ⅱ部 2章 資源と環境 1節 世界の農林水産業 3節 世界のエネルギー・鉱山資源 4節 世界の資源・エネルギー問題 5節 世界の工業				
	二学期	13	第Ⅱ部 3章 人口、村落・都市 1節 世界の人口 2節 人口問題 4節 都市・居住問題  第Ⅱ部 4章 生活文化、民族・宗教 1節 世界の衣食住	《2学期中間考査》			
		13	第Ⅱ部 4章 生活文化、民族・宗教 2節 民族と宗教 3節 現代世界の国家 4節 民族・領土問題  第3部 2章 現代世界の諸地域 2節 東アジア	《2学期期末考査》			
三学期	12	第3部 2章 現代世界の諸地域 3節 南東アジア 7節 ヨーロッパ 8節 ロシア 9節 アングロアメリカ	《学年末考査》				
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業の際は、教科書、資料集、プリントを持参してください。</li> <li>●課題の提出状況、内容は評価に影響します。</li> </ul> <p style="text-align: right;">※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現力	知識・理解			
評価の観点	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとするか。	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できるか。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけているか。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業への出席状況</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●課題等の提出内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●課題等の提出内容</li> </ul>			

教科	地理歴史	科目	地理A	単位数	2	学年・コース	2年 進学・体育	
教科書	『新詳地理B』帝国書院 『新詳地理資料COMPLETE』帝国書院 『新詳高等地図』帝国書院			担当者	坂巻 主税・成澤 可奈子・小針 大輝・小岩井 達裕			
概要・ねらい	地理の基本を学び、地図の読解や世界の地形、気候といった自然に関する見方を知り、環境に対する関心や愛情などを育成する。地誌的な分野では、世界各地の特徴と問題点を学び、現代世界に生きる上での基本的な情報を学び、主体的に生きる力を養う。また、資料や写真を使い理解を深める。							
年間授業計画	学期	時配 間当	学習内容	評価規準				
	一学期	10	第Ⅱ部 1章 自然環境 3節 日本の自然の特徴と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本の地形・気候を理解し、私たちの生活にどのような影響を与えているかを考察し、とらえようとしている。</li> <li>●日本における開発に伴う災害の発生と防災について、その現状と課題を考察し、とらえようとしている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《1学期中間考査》</p>				
		10	第Ⅲ部 2章 現代世界の諸地域 2節 東アジア 3節 東南アジア 4節 南アジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東アジア地域の自然・歴史・文化・産業などにみられる地域的特色や日本との関わり、課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</li> <li>●東南アジア・南アジア地域について、自然環境の地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《1学期期末考査》</p>				
	二学期	13	7節 ヨーロッパ 8節 ロシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヨーロッパについて、ヨーロッパの各地域の自然・歴史・文化・産業などにみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</li> <li>●ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境の地域にみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《2学期中間考査》</p>				
		13	9節 アングロアメリカ 10節 ラテンアメリカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アングロアメリカについて、移民国家としてのアメリカ合衆国やカナダにみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</li> <li>●ラテンアメリカについて、スペインやポルトガルの影響を強く受けた地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《2学期期末考査》</p>				
	三学期	12	5節 西アジアと中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境の地域にみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</li> <li>●北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中南アフリカ文化の地域にみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《学年末考査》</p>				
	履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業は板書したりプリント等を利用します。</li> <li>●課題の提出に関しては評価にも影響しますので、必ず提出するようにしてください。</li> </ul> <p>※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p>						
	評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解				
評価の観点	教科書・プリントなどの準備を怠らず、授業に出席し、その参加に意欲的であるか。	様々な事象に対する問題点をよく知り、自分の意見を持って発言することができるか。	教科書や資料などを活用して、物事をとらえることができるか。	世界のどの場所で、自然や人間がどのように生き、どのような問題を抱えているかを理解することができるか。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業への出席状況</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●課題等の提出</li> </ul>				

教科	地理歴史	科目	日本史B	単位数	4	学年・コース	3年 アカデミック文系
教科書	『詳説 日本史B』山川出版社 『新詳 日本史』浜島書店		担当者	萬田 依子			
概要・ねらい	わが国の歴史の始まりと展開を世界的視野にたち総合的に考えさせ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を考え深めることにより歴史的な考えを養い、国際社会に生きる日本人としての資質を養い表現できることを育成する。						
年間授業計画	学期	時間当	学習内容	評価規準			
	一学期	20	第6章 幕藩体制の確立 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造  第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化	《1学期中間考査》			
		20	第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化  第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱				
	二学期	26	第9章 近代国家の成立 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達	《2学期中間考査》			
		26	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化	《2学期期末考査》			
三学期	3学期は授業を行いません。						
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業の際は、教科書、資料集、プリントを持参してください。</li> <li>●課題の提出状況、内容は評価に影響します。</li> </ul> <p>※評価は定期試験と上記事項などを含め総合的に判断します。</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現力	知識・理解			
評価の観点	我が国の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	日本の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特徴を日本史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	日本の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	日本の歴史についての基本的な事柄を、東アジア・ヨーロッパの歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業への出席状況</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●課題等の提出内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●課題等の提出内容</li> </ul>			

教科	地理歴史	科目	日本史演習	単位数	3	学年・コース	3年 アカデミック文系
教科書	『詳説 日本史B』山川出版 『新詳 日本史図説』浜島書店			担当者	小針 大輝		
概要・ねらい	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる市民としての自覚と資質を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	15	第10章 二つの世界大戦とアジア 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>●恐慌から立ち直るために軍部が台頭した背景を理解しているか。</li> <li>●戦争に対して民衆(特に銃後の人びと)をどのように巻き込まれていったのか、そしてどのように戦後を生き抜いたのかを考察できているか。</li> <li>●なぜ、日本が国際関係を分断して、アメリカと戦争を始めたのかを中国をキーワードにしながらか考察が出来るか。</li> </ul>	《1学期中間考査》		
		15	第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●戦後、日本はどのように国際社会に復帰したのか理解する。</li> <li>●第二次世界大戦の頃からすでに、冷戦がはじまっていたことに着目し、日本は国際関係のどこに位置づけられていたのかを考察できたか。</li> <li>●アメリカを中心とする占領軍は、なぜ日本を「占領」するのではなく「独立」させたのかを考察し、日本はどのように戦後を迎えたのか理解できたか。</li> </ul>	《1学期期末考査》		
	二学期	20	第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●太平洋戦争後の「虚脱」状態から「もはや戦後ではない」と言われるまでに社会が変化した理由について考察できたか。</li> <li>●民衆の政治関心が高まり、社会運動が活発になるまでの背景を考察できたか。(文化も含めて)</li> <li>●戦後の社会変化、経済好転の終焉を迎えて、日本社会のひずみが顕在化し始めた中でどのように経済大国へのし上がっていったのかを考察する。</li> <li>●冷戦が終結し、国際関係は新たな線引きを画策し始める今日、日本は国際関係とどう向き合うべきなのか、近現代史の中から考察する。</li> <li>●国家も人びとも「個」を重視する社会の中で、自分たちがこの先どのように生きていくのか、具体的に考察できたか。</li> </ul>	《2学期中間考査》		
		19	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>●希望進路の過去問を解くことで、受験の対策を行う。</li> <li>●基本的には課題として過去問を解き、授業内で問題の解説を行う。</li> </ul>	《2学期期末考査》		
三学期			3学期は授業を行いません。				
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史の大勢をつかむこと。</li> <li>●向上心を持ち、切磋琢磨すること</li> <li>●配布されたプリントを保管すること</li> <li>●欠席、遅刻をしないこと</li> <li>●常に自分の意見を持ち、理論立てて説明できるようにすること</li> </ul> <p>※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解			
評価の観点の趣旨	わが国の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	日本の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特徴を日本史的視野にたつて多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	日本の歴史についての諸資料を収集し、興味ある情報を選択して活用することを通して歴史的な事柄を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察し過程や結果を適切に表現する。	日本の歴史についての基本的な事柄を、東アジアやヨーロッパの歴史と比較しながら、どのように展開していくか追求し考え理解されているか判断する。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業への出席状況</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●小テスト</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>			

教科	地理歴史	科目	世界史B	単位数	4	学年・コース	3年 アカデミック文系
教科書	『詳説 世界史B』山川出版社 『アカデミア世界史』浜島書店		担当者	齋藤翔太			
概要・ねらい	世界史の大きな流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。また、文化の多様性と現代社会の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。						
年間授業計画	一学期	20	第12章 アジア諸地域の動揺 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動  第13章 帝国主義とアジアの民族運動 1 帝国主義と列強の展開 2 世界分割と列強対立 3 アジア諸国の改革と民族運動	○インドの植民地化とその社会の変貌、東南アジア諸国の植民地化の過程を理解できたか。  ○ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解できたか。  ○帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解できたか。  ○帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解できたか。	≪1学期中間考査≫		
		20	第14章 二つの世界大戦 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5 第二次世界大戦	○総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解し、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察できたか。	≪1学期期末考査≫		
	二学期	26	第15章 冷戦と第三世界の独立 1 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 2 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 3 第三世界の台頭と米ソの歩み寄り 4 石油危機と世界経済の再編	○第二次世界大戦後、米ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解できたか。  ○中華人民共和国の成立やアジア諸地域の独立の過程を理解できたか。	≪2学期中間考査≫		
		26	入試に向けた復習	○問題演習を通して、世界史全体の流れを説明できるか。	≪2学期期末考査≫		
	三学期	3学期は授業を行いません。					
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>●板書をしっかり写すこと</li> <li>●配布されたプリントを保管すること</li> <li>●課題、宿題などにしっかり取り組むこと</li> <li>●欠席、遅刻をしないこと</li> </ul> ※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解			
評価の観点	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に迫るとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとするか。	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できるか。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的現象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけているか。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業への出席状況</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●課題等の提出内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●課題等の提出内容</li> </ul>			

教科	地理歴史	科目	世界史演習	単位数	3	学年・コース	3年 アカデミック文系
教科書	『詳説 世界史B』山川出版社 『アカデミア世界史』浜島書店		担当者	齋藤翔太			
概要・ねらい	入試に向けて大学入試過去問題や問題集に取り組みながら、すでに学習した内容を復習し、知識の定着を図る。 また、世界各国の歴史の関連性を多角的な観点からとらえ、論述対策に役立たせる。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヨーロッパ史・イスラーム史・中国史 中世ヨーロッパまでの内容に関する問題に取り組む。 また各国の文化について理解を深める。</li> <li>●入試問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> </ul>			
		《1学期中間考査》					
	二学期	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヨーロッパ史・イスラーム史・中国史 近代ヨーロッパまでの内容に関する問題に取り組む。 また各国の文化について理解を深める。</li> <li>●入試問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> </ul>			
		《1学期期末考査》					
	三学期	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>●近現代 第二次世界大戦後以降の内容に関する問題演習に取り組む。 また各国の文化について理解を深める。</li> <li>●入試問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> </ul>			
《2学期中間考査》							
三学期	19	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入試問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> </ul>				
《2学期期末考査》							
3学期は授業を行いません。							
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>●板書をしっかり写すこと</li> <li>●配布されたプリントを保管すること</li> <li>●課題、宿題などにしっかり取り組むこと</li> <li>●欠席、遅刻をしないこと</li> </ul>							
※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用	知識・理解			
評価の観点	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとするか。	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できるか。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけているか。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業への出席状況</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●小テスト</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>			

教科	地理歴史	科目	日本史	単位数	5	学年・コース	3年 進学文系
教科書	『詳説 日本史B』山川出版 『新詳 日本史図説』浜島書店			担当者	成澤 可奈子・岡田 新平		
概要・ねらい	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	25	第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化	● 荘園支配の動向や武士の成長、文化の面で武士や庶民の生活が反映され始めたことに着目して、古代社会の変化の中に中世社会の萌芽がみられたことを考察できたか。 ● 武家・公家・寺社などが権力を分有する多様性や地域的な差異に基づいて、中世の国家や社会がどのようなものであるか考えたか。  《1学期中間考査》			
		25	第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	● 鎌倉幕府と室町幕府の共通点と違いなどを理解しているか。 ● 室町幕府が衰退していく展開と一揆の動きなどを理解しているか。 ● 戦国大名の活動と支配のありかたが理解されているか。  《1学期期末考査》			
	二学期	33	第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立	● 全国統一への過程が理解されているか。 ● 桃山文化の特色である豪華さ、壮大さを具体例を基に把握できているか。 ● 徳川家康が江戸幕府を開き、全国支配を実現した過程が捉えられたか。  《2学期中間考査》			
		32	第6章 幕藩体制の確立 4 幕藩社会の構造 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 2 経済の発展	● 将軍と大名によって土地と人民が統治される支配機構を理解しているか。 ● 日本国内において幕府や諸藩が政治の安定化を目指して様々な政策を取り、秩序の確立をはかったことを理解しているか。  《2学期期末考査》			
三学期			3学期は授業を行いません。				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 板書をしっかり写すこと</li> <li>● 配布されたプリントを保管すること</li> <li>● 課題、宿題などにしっかり取り組むこと</li> <li>● 欠席、遅刻をしないこと</li> </ul> <p style="text-align: right;">※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p>						
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現力	知識・理解			
評価の観点の趣旨	わが国の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。		日本の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特徴を日本史的視野にたつて多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	日本の歴史についての諸資料を収集し、興味ある情報を選択して活用することを通して歴史的な事柄を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察し過程や結果を適切に表現する。		日本の歴史についての基本的な事柄を、東アジアやヨーロッパの歴史と比較しながら、どのように展開していくか追求し考え理解されているか判断する。	
評価方法	● 授業への出席状況 ● 授業への取り組み姿勢 ● 課題等の提出状況		● 定期テスト ● 授業への取り組み姿勢 ● 課題等の提出状況	● 定期テスト ● 授業への取り組み姿勢		● 定期テスト ● 小テスト ● 課題等の提出状況	

教科	地理歴史	科目	日本史	単位数	3	学年・コース	3年 体育
教科書	『詳説 日本史B』山川出版 『新詳 日本史図説』浜島書店			担当者	成澤 可奈子・小岩井 達裕		
概要・ねらい	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	15	第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退	● 荘園支配の動向や武士の成長、文化の面で武士や庶民の生活が反映され始めたことに着目して、古代社会の変化の中に中世社会の萌芽がみられたことを考察できたか。 ● 武家・公家・寺社などが権力を分有する多様性や地域的な差異に基づいて、中世の国家や社会がどのようなものであるか考えたか。  《1学期中間考査》			
		15	第4章 中世社会の成立 5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭	● 鎌倉幕府と室町幕府の共通点と違いなどを理解しているか。 ● 室町幕府が衰退していく展開と一揆の動きなどを理解しているか。  《1学期期末考査》			
	二学期	20	第5章 武家社会の成長 3 室町文化 4 戦国大名の登場 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権	● 戦国大名の活動と支配のありかたが理解されているか。 ● 全国統一への過程が理解されているか。  《2学期中間考査》			
		19	第6章 幕藩体制の確立 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造	● 桃山文化の特色である豪華さ、壮大さを具体例を基に把握できているか。 ● 徳川家康が江戸幕府を開き、全国支配を実現した過程が捉えられたか。 ● 将軍と大名によって土地と人民が統治される支配機構を理解しているか。  《2学期期末考査》			
三学期			《学年末考査》				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 板書をしっかり写すこと</li> <li>● 配布されたプリントを保管すること</li> <li>● 課題、宿題などにしっかり取り組むこと</li> <li>● 欠席、遅刻をしないこと</li> </ul> <p style="text-align: right;">※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p>						
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現力	知識・理解			
評価の観点の趣旨	わが国の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。		日本の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特徴を日本史的視野にたつて多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	日本の歴史についての諸資料を収集し、興味ある情報を選択して活用することを通して歴史的な事柄を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察し過程や結果を適切に表現する。		日本の歴史についての基本的な事柄を、東アジアやヨーロッパの歴史と比較しながら、どのように展開していくか追求し考え理解されているか判断する。	
評価方法	● 授業への出席状況 ● 授業への取り組み姿勢 ● 課題等の提出状況		● 定期テスト ● 授業への取り組み姿勢 ● 課題等の提出状況	● 定期テスト ● 授業への取り組み姿勢		● 定期テスト ● 小テスト ● 課題等の提出状況	



教科	地理歴史	科目	世界史B	単位数	5	学年・コース	3年 進学文系
教科書	山川出版社『詳説 世界史B』 帝国書院『最新世界史図説 タベストーリー』			担当者	渡部 翔太		
概要・ねらい	アジアの歴史を、ヨーロッパの歴史と関連付けさせることで双方に対する理解を深めることを目的とする。また第二学年に引き続き、ヨーロッパがどのように近代国民国家として発展していったかを学び、どのように世界大戦へと突入するかの理解を深めることで、歴史的思考能力を養うことを目的とする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	25	第1部 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●内陸アジアの国々の成り立ちを正しく理解することができたか。</li> <li>●中国の分裂と文化の形成を理解し、内陸アジアの国々との関わりを理解することができたか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">≪1学期中間考査≫</p>			
		25	第4章 イスラーム世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界宗教であるイスラームの成り立ちとイスラーム世界の変遷を正しく捉えることができたか。</li> <li>●イスラーム世界の広がり、その文化的影響を正しく捉え鑑賞することができたか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">≪1学期期末考査≫</p>			
	二学期	33	第Ⅲ部 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第1学年、第2学年で学んだヨーロッパ史をもとに現代社会に繋がる産業革命やアメリカ独立革命について学ぶことができたか。</li> <li>●近代の人権の思想観を捉え、今の私たちと歴史との関わりを感じることができたか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">≪2学期中間考査≫</p>			
		32	第11章 欧米における近代国民国家の発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>●フランス革命後形成されたウィーン体制の下、近代への土壌がどのように形成されたかを正しく捉えることができたか。</li> <li>●第1学年で学んだ第一次世界大戦へと向けてヨーロッパにおける勢力バランスがどのように変遷していくかを捉えることができたか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">≪2学期期末考査≫</p>			
三学期			3学期は授業を行いません。				
履修上の注意							
<p>・授業は必要に応じて板書したり、プリントなどを利用するので、必ず教科書・ノート・配布プリントなどを用意しておくこと。</p> <p>・世界史を過去の出来事のみとして考えず、現代とのつながりを意識して学ぶこと ※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用	知識・理解			
評価の観点の趣旨	世界史について関心を持って取り組み、意欲的に課題に取り組んだか。	世界史を過去の事象の積み重ねとして捉えて、出来事の連続性を見出すことができたか。	資料から情報を読み取り空欄補充に活用することができたか。	世界史における重要な出来事を正しく学び、覚えることができたか。歴史の因果関係を正しく捉えることができたか。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業への出席状況</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●課題等の提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●課題等の提出</li> </ul>			

教科	地理歴史	科目	世界史B	単位数	3	学年・コース	3年 体育
教科書	『詳説 世界史B』山川出版社 『最新世界史図説 タバストーリー』帝国書院			担当者	森田 大介・坂巻 主税・渡部 翔太		
概要・ねらい	世界史の大きな流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。また、文化の多様性と現代社会の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	15	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資本主義を確立した産業革命を理解できるか。</li> <li>●世界初の民主主義国家がどのように生まれたのかを、理解できるか。</li> <li>●アメリカ独立革命が契機となったフランス革命によって、もたらされた影響を理解することができるか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《1学期中間考査》</p>			
		15	第11章 欧米における近代国民国家の発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>●フランス革命を主とした大変動後、諸列強が政治的安定を目指し、ウィーン体制を構築したことを理解し、その影響について考えることができるか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《1学期期末考査》</p>			
	二学期	20	第11章 欧米における近代国民国家の発展 第12章 アジア諸地域の動揺 1 オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヨーロッパの干渉を排除し、産業を急速に発達させたアメリカ合衆国やヨーロッパの帝国主義政策を理解し、その成果によるアジア・アフリカ地域への優越感の広がりを考察することができるか。</li> <li>●西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革、アラブ諸民族の覚醒、イラン・アフガニスタンの動向を理解できたか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《2学期中間考査》</p>			
		19	第12章 アジア諸地域の動揺 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●インドの植民地化とその社会の変貌、東南アジア諸国の植民地化の過程を理解できたか。</li> <li>●ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解できたか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《2学期期末考査》</p>			
三学期		3学期は授業を行いません。					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>●板書をしっかり写すこと</li> <li>●配布されたプリントを保管すること</li> <li>●課題、宿題などにしっかり取り組むこと</li> <li>●欠席、遅刻をしないこと</li> </ul> <p>※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p>						
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用	技能	知識・理解		
評価の観点	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとするか。	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できるか。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できるか。	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけているか。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業への出席状況</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●小テスト</li> <li>●課題等の提出状況</li> </ul>			

教科	地理歴史		科目	日本史B	単位数	2	学年・コース	3年 アカデミック
教科書	実教出版『最新 現代社会新訂版』 浜島書店『最新図説 現社』			担当者	萬田 依子			
概要・ねらい	中学社会科で学んできたことをさらに深め、現代社会に関する経済的・政治的・倫理的認識を高めつつ、社会問題を自らの課題として考える力を養うことを目標とする。また、心理学や哲学を手がかりに、自分自身について深く考える態度を養うことも目標とする。							
年間 授業 計画	学期	時配 間当	学習内容	評価規準				
	一 学 期	10	第4節 国際社会と人類の課題 第2章 国際経済の動向と国際協力 1 貿易と国際収支 2 外国為替市場のしくみ 3 第二次世界大戦後の国際経済 4 地域的経済統合の進展 5 こんにちの国際経済 6 発展途上国の諸問題 7 経済協力と日本の役割	≪1学期中間考査≫				
		10	第4節 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向 1 国際社会と国際法 2 国際的な人権保障と国際政治 3 国際連合と国際協力 4 冷戦の成立とその崩壊 5 こんにちの国際政治 6 人種・民族問題 7 軍拡競争から軍縮へ 8 国際平和と日本の役割					
	二 学 期	13	第2節 現代の民主政治と日本国憲法 第3章 日本の政治機構と政治参加 1 政治機構と国会 2 行政権と行政機能の拡大 3 公正な裁判の保障 4 地方自治と住民福祉 5 政党政治 6 選挙制度 7 世論と政治参加	≪2学期中間考査≫				
		13	第3節 現代の経済社会と国民生活 第2章 日本経済の特質と国民生活 1 戦後復興から高度経済成長へ 2 安定成長からバブル経済へ 3 日本経済の課題 4 日本の中小企業 5 日本の農業 6 消費者問題 7 公害の防止の環境保全 8 労働問題と労働者の権利 9 こんにちの労働問題 10 社会保障の役割 11 社会保障制度の課題					
三 学 期	3学期は授業を行いません。							
履修上の注意								
●授業の際は、教科書、資料集、プリントを持参してください。								
●課題の提出状況、内容は評価に影響します。								
※評価は定期試験と上記事項などを含め総合的に判断します。								
評価の観点の趣旨と評価方法								
各観点	関心・意欲・態度		思考・判断	資料活用の技能・表現力		知識・理解		
評価の観点	我が国の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。		日本の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を日本史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	日本の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。		日本の歴史についての基本的な事柄を、東アジア・ヨーロッパの歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。		
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出状況		●定期テスト ●課題等の提出内容	●定期テスト ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出内容		●定期テスト ●課題等の提出内容		

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育
教科書	東京書籍『現代社会』 浜島書店『最新図説 現社』			担当者	廣段 和也・齋藤 翔太・村田 克則・渡部 翔太		
概要・ねらい	中学社会科で学んできたことをさらに深め、現代社会に関する経済的・政治的・倫理的認識を高めつつ、社会問題を自らの課題として考える力を養うことを目標とする。また、現代社会では心理学や哲学を手がかりに、自分自身について深く考える態度を養うことも目標とする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	10	2. 現代の社会と人間 第2章 日本国憲法と民主政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本国憲法の成立背景や原理を理解し、人権保障に考えをめぐらせ、また、日本の防衛上の問題点などの対外的な視点を持つことができたか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《1学期中間考査》</p>			
		10	2. 現代の社会と人間 第2章 日本国憲法と民主政治 第3章 現代社会と法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本の政治機構・政治参加について理解を深めることができたか。</li> <li>●選挙制度の変遷や政治参加の方法について学習を深め、自身が選挙権を持つことと関連させながら考えることができていくか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《1学期期末考査》</p>			
	二学期	13	2. 現代の社会と人間 第4章 現代の経済と国民福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経済活動の流れや市場のしくみなどを理解することができたか。</li> <li>●現代の企業や国民所得など、身近な問題について、積極的に学習し、理解することができたか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《2学期中間考査》</p>			
		13	2. 現代の社会と人間 第4章 現代の経済と国民福祉 第5章 国際社会と人類の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●戦後復興から現代までの人々の生活の変化をつかみ、今日の社会問題に目を向け、理解し、自ら考えることができていくか。</li> <li>●労働問題や社会保障制度など、取り上げられることが多い問題について理解しているか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《2学期期末考査》</p>			
三学期		3学期は授業を行いません。					
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は必要に応じて板書したり、プリントなどを利用するので、必ず教科書・ノート・配布プリントなどを用意しておくこと。</li> <li>・新聞・テレビなどのニュースなど、世界の情報・動きに関心を持つこと。</li> </ul> <p style="text-align: right;">※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解			
評価の観点の趣旨	現代社会の諸事情について関心を高め、意欲的に課題を追求したか。	社会の様々な事象を政治的・経済的側面にとらえ、課題を見出すことができたか。	学習した過程や結果をわかりやすくまとめ、表現することができたか。 資料を読み取り、課題に応じて利用することができたか。	現代社会を様々な角度から認識し、政治・経済・倫理・国際分野に関する知識を理解することができたか。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業への出席状況</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●授業への取り組み姿勢</li> <li>●課題等の提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●課題等の提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●課題等の提出</li> </ul>			

教科	公民	科目	政治経済	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育
教科書	『現代社会』東京書籍、『最新図説 現社』浜島書店			担当者	廣段 和也・村田 克則・渡部 翔太		
概要・ねらい	中学社会科及び現代社会で培った知識をさらに深め、現代社会に関する経済的・政治的認識を高めつつ、社会問題を自らの課題として考える力を養うことを目標とする。また、倫理分野では心理学や哲学を手がかりに、高校生活が自分自身について深く考える態度を養うことも目標とする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	10	第2部 現代の社会と人間 第1章 青年期と自己形成の課題 1現代社会と青年の生き方 2よりよく生きることを求めて	●心理学、哲学的側面から考察し、考える力を養う。また、他国と自国の宗教・思想を比較し、それぞれの事柄について理解する。  ≪1学期中間考査≫			
		10		●哲学的側面から日本人としての自覚を養う。また、民主主義がどのようにして生まれ、我々は何のような課題を持ち、政治に参加していくかを理解する。  ≪1学期期末考査≫			
	二学期	13	第5章 国際社会と人類の課題 1国際政治のしくみと動向 2国際経済のしくみと動向	●国際社会の中に生きる我々の政治的立場や行うべき事を理解し、今日の国際政治の課題を考える。  ≪2学期中間考査≫			
		13		●国際社会の中に生きる我々の立場や行うべき事を経済的な側面から理解し、今日の国際社会の課題を考える。  ≪2学期期末考査≫			
	三学期			3学期は授業を行いません。			
<b>履修上の注意</b> ・授業は必要に応じて板書したり、プリントなどを利用するので、必ず教科書・ノート・配布プリントなどを用意しておくこと。 ・新聞・テレビなどのニュースなど、世界の情報・動きに関心を持つこと。 ※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する							
<b>評価の観点の趣旨と評価方法</b>							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解			
評価の観点	現代社会の諸事情について関心を高め、意欲的に課題を追求したか。	社会の様々な事象を政治的・経済的側面にとらえ、課題を見出すことができたか。	学習した過程や結果をわかりやすくまとめ、表現することができたか。	現代社会を様々な角度から認識し、政治・経済・倫理・国際分野に関する知識が身に付いたか。			
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出	●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出	●定期テスト ●授業への取り組む姿勢	●定期テスト ●課題等の提出			